



# 第 120 回創薬科学セミナー／CIBoG セミナー

[先端薬科学特論 (単位認定)]



日比野絵美 先生

名古屋大学創薬科学研究科・特任助教 (卓越大学院 CIBoG)・博士 (薬科学)

## 天然変性タンパク質および A $\beta$ 産生抑制タンパク質の構造・機能解析

2020年6月29日(月) 16:30~18:00

Zoom による開催

登録 : <https://forms.gle/ZX8vrYAnCQXAxh5X7>

連絡先: 創薬科学研究科 廣明秀一 (内線 4535)

hiroaki.hidekazu@f.mbox.nagoya-u.ac.jp



## タイトル：天然変性タンパク質および Ab 産生抑制タンパク質の構造・機能解析

日比野博士は、タンパク質の溶液中での立体構造ならびに分子間相互作用の解析に威力を発揮する実験手法である、溶液 NMR 法を主たる研究手法としつつ、CD スペクトル、X 線小角散乱等の種々の生物物理学的手法による解析経験をお持ちである。

出身研究室である、京都大学大学院薬学研究科（松崎・星野研究室）においては、転写調節因子 Sp1 と、基本転写因子 TAF4 との相互作用について、両者の相互作用に関わる領域が天然変性領域であることに着目して、多面的に解析した。その結果、転写活性化の分子機構の解明に留まらず、天然変性領域が機能する普遍的なメカニズムの端緒となった。

本学着任前の所属（滋賀医科大学）では、 $\gamma$ -secretase presenilin 1 subunit (PS1) に作用するというユニークな機構でアルツハイマー病の原因とされているアミロイド  $\beta$  タンパク質 ( $A\beta$ ) の産生量を減少させる因子 ILEI タンパク質の機能解明を進めている。ILEI (GS3786, FAM3 metabolism regulating signaling molecule C) は、TGF $\beta$  類似の、細胞に対する EMT 誘導作用をもつことでも知られている。ILEI の機能部位を特定することで、新規のメカニズムによるアルツハイマー病の治療薬開発の可能性が期待されている。

質問箱 [sli.do](http://sli.do) を利用します ブラウザ(<http://sli.do>)か専用アプリでアクセスしてください。 質問箱番号 #12335